

# 腸閉塞「ステント」で治療

## 大腸に金属の網状の筒 通り道つくる

大腸に腫瘍ができるとう腸が狭くなって、排泄ができず、食事も取れなくなる  
ことがある。腸の通り道をつくるため、腸内に金属製の網状の筒「大腸ステ  
ント」を入れる治療が広がっている。これまでは人工肛門を造ることが多かつた  
が、患者のQOL（生活の質）向上につながるかと期待されている。

### QOL向上に期待

東京都世田谷区の小川礼子  
さん(67)は9月下旬、激しい  
腹痛で、東邦大医療センター  
大橋病院へ運び込まれた。約  
4ヶ月のがんができ、腸が詰ま  
り腸閉塞で便が通らなくなっ  
ていた。腸が破裂する危険が  
あり、すぐに入院。内視鏡で  
大腸にステントを入れた。手  
術は約1時間で終わった。

ステントは、直径2センチの  
伸縮性のある金属の網状の筒  
で、長さは6〜12センチ。内視鏡  
を使って、肛門から腫瘍があ  
る部分まで入れる。筒を開か  
せることで、腫瘍を押し分け  
て腸の通り道が確保できる。  
効果はすぐに自覚できたとい  
う。その日の夜に10回以上

### 挿入に技術が必要

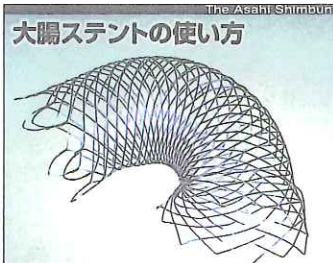
大腸ステントは今年、公的  
医療保険の対象になった。高  
齢者やがんが進行して手術が  
できなくなった患者らの腸閉  
塞を解消するためにも役立  
てられる。ステント治療後に再

の破裂一歩手前の段階になっ  
て異常を訴える人が少なく  
ない。破裂すれば合併症など  
命に危険が及ぶため、緊急手  
術で開腹して人工肛門を作る  
治療が一般的だ。ただ、いっ  
たん人工肛門を作ると入院期  
間が長引き、管理にも手間が  
かかる。

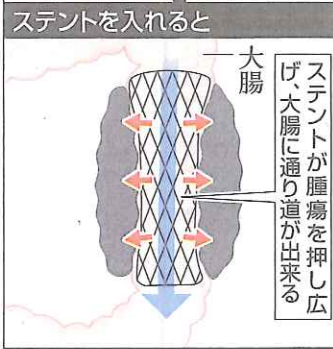
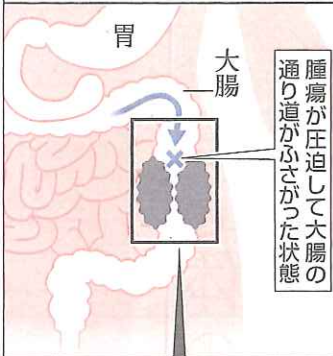
小川さんの主治医の齊田芳  
久・同大病院准教授は「閉塞  
を解消すれば合併症を減らす  
ことができ、大腸がんの手術  
をスムーズに行える。人工肛  
門のケアが大変なことを考え  
ると、QOLの面でも効果は  
高い」と話す。

ち1割で大腸が狭まる症状が  
みられる。その半数の約5千  
人ほどがステント治療の対象  
になる可能性があるという。  
ただ、ステント挿入時には  
曲がりくねる大腸に穴を開け  
てしまわないよう、医師には  
細心の注意と技術が必要だ。  
肛門に近い場所では違和感が  
出ることも分かっている。適  
正な使用法はまだ模索  
段階にある。

（森本未紀）



大腸ステント  
ポストン・サイエンティフィック・ジャパン提供



び閉塞が起きないように、食物  
繊維の多い食べ物を控える必  
要があるが、食事も普通に  
出来るようになるという。  
齊田准教授によると、年間  
約10万人の大腸がん患者のう

年5月、「大腸ステント安全  
手技研究会」を発足させた。  
研究会は全国から治療実績を  
募り、安全な使用方法を検討  
することになっている。  
世話人の一人、東京大病院  
消化器内科の吉田俊太郎・特  
任臨床医は「治療は広めたい  
が、安全に進めていきたい。  
安全技術はもとより、どんな  
場合に使うべきなのか、判断  
できるようにしたい」と話し  
ている。